

イタリア南部経済発展に関して1950年代に 書かれた時局論の詳説と検討 (1)

後藤修三

Some Expatiations and Examinations of the Articles on the
Economic Development of Mezzogiorno Written in the 1950s

Shuzo GOTO

ABSTRACT

The 1950s were the crucial period for the economic development of Mezzogiorno. In 1950, three laws concerning the land reform were promulgated, and agrarian reform and modernization began to be implemented. In the same year the *Cassa per il Mezzogiorno* (the state fund for the South) was set up. A great number of scholars, journalists, essayists and politicians participated in the discussions of the *questioni meridionali* (the southern questions) and made public their opinions in magazines and newspapers. This paper aims to expatiate and examine the then current articles. They are different from statistics or academic research. They convey to us the enthusiasm and desperation of the discussants who witnessed the southern situation. These articles were collected meticulously in *Informazioni SVIMEZ* which *Associazione per lo sviluppo dell'industria del Mezzogiorno* has continued to publish until today since its foundation in December 1946. This paper picks up a newspaper article *il frazionamento della proprietà in Sardegna* (the fragmentation of the land in Sardinia) collected in *Informazioni SVIMEZ*, January 3-19, 1955, in order to expatiate and discuss the witness' opinion of the economic development in one region of Mezzogiorno.

KEYWORDS: land reform southern questions Sardinia fragmentation dispersion

1. はじめに

1950年代はイタリア南部経済発展にとっては決定的に重大な時期であった¹⁾。すなわち、1950年に農業改革に関する3つの法案が公布され、農地改革と農業近代化が着手された。また、同年、南部開発政策を専業とする強力な国家機関、南部開発公庫 (*Cassa per il Mezzogiorno*) が設立された。農地改革、農業近代化政策、南部への公的資本投下をめぐって膨大な数の論文や記事が書かれた。

本稿は、1950年代にイタリア南部経済発展に関して書かれた雑誌記事、新聞記事の詳説と検討で

ある。統計資料や研究論文とは違って、当時実際に現場を目撃した論客たちの熱い息吹あるいは絶望的な溜め息が伝わってくる。

出典は、*Informazioni SVIMEZ* からである。この雑誌は南部工業化促進協会 (*Associazione per lo sviluppo dell'industria del Mezzogiorno*) がその創設 (1946年12月) につづいて発刊開始し、現在に至るまで発行しているものである。イタリア南部政策に関する立法の情報、イタリア南部のみならず他の停滞地域に関する文献、雑誌記事、新聞記事を掲載している。

本稿では、以下の記事を詳説・検討する。

受理日：平成15年10月10日

2. サルデニアにおける土地の細分化

(*Il frazionamento della proprietà in Sardegna*)

この記事は Informazioni SVIMEZ, 1955年1月3-19日号に掲載されたもので、出典は次のとおりである。

フェリーチェ・メッタ「サルデニアにおける土地の細分化」, サルデニア毎日, カリアリ, 1955年1月9日 (Felice Medda: *Il frazionamento della proprietà in Sardegna, Il Quotidiano Sardo*, Cagliari, 9-1-1955)

南部イタリアでは私的土地所有が細分化, 断片化されているという実情が農業経営の効率化をさまざまな点で妨害している²⁾。この記事はこの状況を如実に描写している。以下詳説する。

最近の情報によると, 農林省は耕作地の最低限を規定する法律を実行する機関を制定する作業に入っているという。現行の民法にも, 土地のこれ以上の細分化を禁止する条項がある。また, 細分化された土地に囲まれた最低限以下の土地を売却する義務を述べた条項もある。

この計画はサルデニアにとっては大きな重要性をもつ。サルデニアは, イタリアの中で, もっとも多くこの法律の適用が必要な地域である。そして, それはサルデニアに即効的な便益をもたらすであろう。というのは, サルデニアにおける土地配分の呈する最も深刻な欠陥のひとつが, 土地の細分化と分散化であるからである。

耕地細分化のこのような状況は合理的農業経営にとって最大の障害となる。労働者と役畜の農場への往復および中核的農作業の不効率化によって生産費を悪化させる。さらに, 農用機械の導入を妨げる。かくして, 細分化された土地の耕作者たちに旧態依然たる栽培の画一化を強制する。そのために, 新しい機械の使用は不可能である。いわんや, それらを合理的に継続して使用することなどは絶望的である。

サルデニアの現在の土地台帳の数字を見れば, 正確とはいえないが, 土地細分化の状況が理解できるであろう。それによると, 耕地面積は240万

ヘクタールであり, その所有者は95万5215人である。

土地の細分化によって, 農地と農地が遠く離れていて, しかも労働者と役畜が一日がかり仕事をするには農地の規模が狭隘過ぎるような場合は, 結果として, 農地への往復によって時間が浪費される。細分化された耕地が遠く離れている場合は, 行き帰りにかかる時間はたびたび一日の労働時間の4分の1から3分の1を吸収している。そのため, 費用を増大させ, 収入を減少させる。

同様の論理が輸送費についても当てはまる。この場合, 事態はもっと深刻である。価値の低い粗野な生産物については特にそうである。例えば, 飼料生産のための牧草の費用のように, 費用が高すぎて, 栽培不可能な作物が出てくる。

土地細分化によって引き起こされる時間損失がもたらす費用を計算した多くの著者たちによると, 農地と農地の距離が500メートルを越えるごとに, 労働費は5パーセントから5.5パーセント増大する。それが750メートルを越えると, 生産物と肥料の輸送費は最低15パーセント最高30パーセント増大する。したがって, 距離間隔がある限界を越えると, 耕作の便益すらも消滅する。

もう一つの損失がある。土地の細分化と分散化によって生じる零細で不規則な地片で農用機械を運転することからくる時間の損失である。かくして, 一定の耕地面積以下の所では, 無限の労働をより迅速に, より合理的に, より経済的にする多くの機械の使用の経済的可能性がなくなる。

さらに, 農地と農地の境界線すなわち相互の通行権から生じる損失がある。農地へのアクセスや耕作のために, 通行権は不可欠である。というのは, 断片的地片の大部分は相互に入り組んでいて, 道路へのアクセスを持っていない。このことが結果として損失をもたらす。すなわち, 画一的耕作と画一的輪作の必然的選択である。この損失はカンピダーノ (Campidano), マルミッラ (Marmilla), トレクセンタ (Trexenta) において顕著に現れている。そこでは, 農地が極端に細分化されていて, ヴィダゾーネ (vidazzone) という農耕システムが

現存している。そのシステム下では、村の耕地の半分は画一的に小麦生産に、他の半分は画一的にマメ (leguminose a granella) 生産に、特化している。

このような条件の下では、飼料用マメへの転作の可能性を開くより合理的輪作の導入は実際的にはほぼ不可能である。通年の飼料用マメ栽培の導入もまた困難である。結局のところ、優れて活動的で有能な耕作者でも大多数の人が続けてきた旧来の輪作に従がわざるをえない。この地方には、土地の区画整備、灌漑、農道建設・整備のような農地改良の導入はほとんど不可能である。

水路網建設と灌漑がこの地方の土地改良の二大事業である。しかし、これらの断片化された土地においては、無気力で怠惰な土地所有者が一人あるいは数人いれば、これらの事業を不可能にしてしまえる。

サルデニアの農村の人々は概して分散した農地にある住宅ではなくて村落に密集して住んでいる。この現象には、多くの理由が考えられるであろう。道路網の貧弱さ、マラリア、農地での安全性の欠如、等々。しかし、主な理由は細分化された土地制度から来ている。すなわち、サルデニア島の大部分の農地がそうであるように、このように細分化され、分散化された農地が支配的な地方においては、どこに住むのに最適な場所かと自問すれば、答えはおのずから、この地方の全面積の上に細分化され分散化している農地群の中心地となるであ

ろう。

これまで見てきた細分化がもたらす有害な諸結果は、結局のところ、次のとおりである。土地所有者のより少ない土地所得、農業経営に投下された労働と資本のより少ない報酬、その結果として、細分化され分散化した農業経営に関するすべての指標は、その農業経営の活動と貢献がより少ない報酬しかもたらさないことを示している。

注

- 1) この時期のことをポール・ギンズボークは次のように述べている。Last but not least, in 1950 the government not only passed the agrarian reform laws, but also set up the Cassa per il Mezzogiorno (the state fund for the South). The Cassa was to play the decisive role in the long-term economic development of the South. (Paul Ginsborg: *A History of Contemporary Italy, Society and Politics 1943-1988*, 1990, Penguin Books, p. 140.) さらに、The 1950s were in fact the crucial period in which the Christian Democrats laid the foundations of their state system, and by this and other means created a new consensus in Italian society. (*Op cit.*, p. 145)
- 2) 「実際に、どちらかという、小さな断片化された土地が南部農業の特色なのである。人口増大の圧力が、南部のほとんど大部分で一般的となった現象、土地の粉碎化 (pulverisation) と断片化 (fragmentation) を引き起こしていた。拙稿 (「ラッセル・キングの Mezzogiorno 論の詳説と検討」, 『鳴門教育大学研究紀要』第15巻 (2000), p. 34)

(後藤修三：四国大学 経済学研究室)